

いのちめぐるまち循環／シーズ研究事業（提案）

背景・目的

南三陸町では、森林経営や海の養殖業における環境認証の取得や、生ゴミをエネルギーと液肥に変換する事業など、官民による取り組みが行われている。しかしながら、目指すいのちめぐるまちの実現には、森里海の取り組みをさらに活性化し経済循環も活発化するような取り組みが不可欠である。そのためには、地域の資源を無駄なく、より付加価値がつくような利用を行い、しかも環境との調和を両立させた事業としていく必要がある。。

本提案は、資源となりうるもの町内にどのような形で存在し、どういった技術や方法で活用したら無駄なく活用できるのか、また、そもそも活動に必要な資源やしくみは充足しているのか、足りないものがあるとしたらどのように補えば良いのかを整理し、次の事業づくりに役立つ情報を提供する。

方法

いのちめぐるまちの実現に寄与する事業のシーズ（種）となる技術や地域資源の現状について文献調査・ヒアリング等による技術動向調査・町内環境調査・フィージビリティスタディ（計画が実現可能かどうかの調査）・実用化試験などを行い、その結果を、事業者が事業に取り組む際の意思決定に役立つ形でデータベース化し提供する。

対象とする分野

（例として・・・）

1) 森の課題対応

- ①森林の木質バイオマスのエネルギー利用
 - ・産業利用を前提とした活用の可能性（熱利用、発電）
 - ・事業としての実現可能性
 - ・実用化試験
 - ・FSC活用の可能性
 - ・森林伐採を計画的に行なった際の川・海への影響
- ②伐採計画とその後の長期活用計画について
 - ・樹種と環境の変化についての予測
 - ・長期的に経営改善となる山林経営と課題整理

2) 里の課題対応

- ①里の環境認証
 - ・様々な認証のメリット・デメリット整理
 - ・町内の生産と消費の動向とバランス
 - ・付加価値化が可能な売り方、売り先の調査
 - ・有機、無農薬と土の関係
 - ・里での施肥量とワカメ等の生育の関係
- ②遊休農地でのエネルギー産出
 - ・地域に最適なエネルギー産出作物の選択
 - ・エネルギー化手法の検討
 - ・町内エネルギーの利用形態の分析と電気以外のベストミックスの検討

3) 海の課題対応

①ノロウイルスフリーの町内環境実現

- ・ノロウイルスの実験系確立（人の腸内でしか増えない環境をどう再現するか）
- ・トイレメーカーと共同したノロウイルス無毒化の研究
- ・町内流動環境におけるウイルス挙動の研究

②未利用資源活用

- ・川鮭活用
- ・イサザアミなどの付加価値化
- ・ホヤ殻、カキ殻の処理と活用方策の検討

③環境変化に対応した新規養殖品種の探索

- ・温暖化予測と志津川湾の変化についての検討
- ・需要から見た有望養殖品種の整理
- ・環境変化に対応した養殖品種の提案

※実際には、町内事業の動向や事業者との対話をとおして対象案件を決定する。

実施体制

研究コーディネーターを中心に、調査・研究組成を行い、研究対象ごとに、大学、エネルギーベンチャー、企業の開発部門などと共同で実施する。

得られた成果の大部分は、オープンにアクセスできる町内事業の種データベースとして公開する。

一定の情報が整理された後、先端的な研究要素については、研究助成金に積極的に応募し、資金獲得を行う。

成果目標

本事業のデータを用いた新規事業への発展や事業改善事例数：3年後に5件以上

概算費用

2018年度 3,400千円（人件費、文献検索、調査委託など）